

## 地域教会とは何か（2）

### イントロダクション

#### 1. 教会とは何か（復習）

##### (1) 教会という言葉と定義

- a) 教会はギリシャ語で「エクレシア」。これは会衆を意味する言葉である。
- b) 聖書的な教会の定義は「この世から呼び出された人々」である。
- c) 教会という概念は、普遍的教会と地域教会に区別することができる。

##### (2) 普遍的教会

- a) ペンテコステの日から携挙までの信者全体のことである。
- b) 目に見えない教会である。
- c) 礎石はキリストであり、土台は使徒たちと新約の預言者たちである。
- d) 教会は「キリストの体」や「神の宮」に例えられている。
- e) 各信者が教会を建て上げる重要なパーツである。

##### (3) 地域教会

- a) 特定の地域にある教会を指す。
- b) 目に見える教会である。

#### 2. アウトライン：地域教会の3つの特徴と補足事項（今回は3と4を学ぶ）

- (1) メシアを信じる人々の集まり
- (2) 組織化された信者たちの集まり
- (3) 神の御心を実行する信者たちの集まり**
- (4) 補足：具体的指示のない事柄について**

#### 3. 結論：地域教会選びについて

### III. 神の御心を実行する信者たちの集まり

#### 1. 共同体として神をほめたたえる

##### (1) 礼拝

コロサイ人への手紙 3:16

キリストのことばが、あなたがたのうちに豊かに住むようにしなさい。知恵を尽くして互いに教え、忠告し合い、詩と賛美と霊の歌により、感謝をもって心から神に向かって歌いなさい。

エペソ人への手紙 5:19

詩と賛美と霊の歌をもって互いに語り合い、主に向かって心から賛美し、歌いなさい。

ヘブル人への手紙 13:15

それなら、私たちはイエスを通して、賛美のいけにえ、御名をたたえる唇の果実を、絶えず神にささげようではありませんか。

##### (2) 祈り

使徒の働き 2:42

彼らはいつも、使徒たちの教えを守り、交わりを持ち、パンを裂き、祈りをしていた。

##### (3) 聖餐式

コリント人への手紙第一 11:26

ですから、あなたがたは、このパンを食べ、杯を飲むたびに、主が来られるまで主の死を告げ知らせるのです。

#### 2. 共同体として御言葉を学ぶ

##### (1) 聖書的根拠

エペソ人への手紙 4:12-13

<sup>12</sup> それは、聖徒たちを整えて奉仕の働きをさせ、キリストのからだを建て上げるためです。<sup>13</sup> 私たちはみな、神の御子に対する信仰と知識において一つとなり、一人

の成熟した大人となって、キリストの満ち満ちた身丈にまで達するのです。

コロサイ人への手紙 1:28

私たちはこのキリストを宣べ伝え、あらゆる知恵をもって、すべての人を諭し、すべての人を教えています。すべての人を、キリストにあって成熟した者として立たせるためです。

テモテへの手紙第一 4:13

私が行くまで、聖書の朗読と勧めと教えに専念しなさい。

- a) パウロがテモテに期待したこと（聖書朗読、勧め、教え）は、すべて聖書の学びに関係している。
- b) パウロは、地域教会の集会にノンクリスチャンが参加することも想定している（1 コリ 14:23）。その場合、伝道を考えるのは自然なことであろう。
- c) しかし、本来的には、教会の集いは伝道ではなく、信者が聖書を学ぶ場である。

(2) Bible teaching において指導者たちが行うべきことの具体例

- a) 聖書の教理を教える。
- b) 聖書の内容を教える。
- c) 神の計画の全貌を教える。

3. 共同体として仕え合う

(1) 聖霊の賜物の行使

(2) 愛の実践：信者同士の助け合い（霊的・物質的援助）

コリント人への手紙第二 8:4-7

<sup>4</sup> 聖徒たちを支える奉仕の恵みにあずかりたいと、大変な熱意をもって私たちに懇願しました。<sup>5</sup>そして、私たちの期待以上に、神のみこころにしたがって、まず自分自身を主に献げ、私たちにも委ねてくれました。<sup>6</sup>それで私たちは、テトスがこの恵みのわざをあなたがたの間で始めたからには、それを成し遂げるようにと、彼に勧めました。<sup>7</sup>あなたがたはすべてのことに、すなわち、信仰にも、ことばにも、知識にも、あらゆる熱心にも、私たちからあなたがたが受けた愛にもあふれています。そのように、この恵みのわざにもあふれるようになってください。

(3) 義の実践：信者の罪を戒める

- a) 地域教会の交わりに属する信者の罪を戒めることは、教会の役割である（マタ 28:15-20）。
- b) 戒め合うことは地域教会に属する信者一般に求められているが（2 テサ 3:14-15）、教会として懲罰を実行するのは長老たちの役割である（1 テモ 5:20）。

4. 共同体として大宣教命令を実行する

(1) 大宣教命令：伝道し、バプテスマを受け、聖書を教える。

マタイの福音書 28:18-20

<sup>18</sup> イエスは近づいて来て、彼らにこう言われた。「わたしには天においても地においても、すべての権威が与えられています。<sup>19</sup> ですから、あなたがたは行って、あらゆる国の人々を弟子としなさい。父、子、聖霊の名において彼らにバプテスマを受け、<sup>20</sup> わたしがあなたがたに命じておいた、すべてのことを守るように教えなさい。見よ。わたしは世の終わりまで、いつもあなたがたとともにいます。」

- a) 大宣教命令は、信者全員に与えられている命令である。
- b) 信者の集いである地域教会もまた、共同体としてこの命令を実行していく。

(2) 実行例その1：共同体のメンバーによる伝道を支援する。

- a) 信者への弟子訓練
- b) 宣教師派遣
- c) 宣教師への霊的・物質的援助

(3) 実行例その2：共同体による愛と義の実践そのものが世に対する証となる。

#### IV. 補足：具体的指示のない事柄について

##### 1. 集まる場所

##### 2. 集会の頻度

- (1) 初代教会では最低でも週に1回（週の初めの日ごと）であったようである。
- (2) 週に1回より少なく考えることはどうか。
  - a) 神がお定めになった7日間というサイクルを重視して定期的集まることは、信者の集いとしては適切だと思われる。
  - b) 教会の目的（聖書の学び、祈り、信者同士の愛と義の実践など）から考えると、週に1回というのは最低限のペースといえるのではないだろうか。

##### 3. 集会の曜日と時間

- (1) 初代教会は「週の初めの日」（今でいう日曜日）に集まっていた。
- (2) 聖書本文には、日曜日ごとの集会を規則とする文言はない。
- (3) 個人的考察
  - a) 実際には、文化圏によりクリスチャンが礼拝を捧げる曜日は異なる。
  - b) グローバル化やサービス業の充実化により、休日が流動的である。
  - c) ニーズに応じていくためには、日曜日以外に礼拝を行う地域教会が増えていくのが理想的ではないだろうか。
  - d) ただし、日本ではまだ日曜日が休日である場合が多い。また、家庭を持つ者は、そのような休日において、家族との時間を大切にすべきだろう。よって、伝統通りに日曜日の午前中に礼拝を持つということは、合理的な判断だといえる。

##### 4. 聖餐式実行の頻度

- (1) 初代教会では、最低でも週に1回の集まりごとに聖餐式を行うことが習慣であったようである。
- (2) 聖書には、聖餐式の頻度を規則的に定めている文言はない。

### 今回のまとめ

1. 地域教会の第3の特徴：地域教会は、神の御心を実行する信者たちの集まりである。
  - (1) 地域教会は、共同体として神をほめたたえる。
  - (2) 地域教会は、共同体として御言葉を学ぶ。
  - (3) 地域教会に属する者は、共同体として互いに仕え合う。
  - (4) 地域教会は、共同体として大宣教命令を実行する。
  
2. 補足：以下の事項については、聖書には具体的な指示が書かれていない。
  - (1) 集まる場所
  - (2) 集会の頻度
  - (3) 集会の曜日と時間
  - (4) 聖餐式実行の頻度

### 結論：地域教会選びについて

1. 聖書は、各信者が地域教会に所属することを前提としている。
  
2. 地域教会選びについて